

第2話 全学的eラーニング推進の4つの契機

日米セッション以前に
EDUCAUSEって何？

EDUCAUSE日米セッション報告

- 米国の大学でeラーニングが広まった契機は次の4つ、とEDUCAUSE会長ダイアナさんが答えた
 1. .comの進展: ITがコンピュータ科学専攻のものだけじゃなくなった
 2. CIOのポジション創設: 全学再設計が経営戦略になった
 3. 学生・教員のニーズ: ITなしでは生活できなくなった
 4. ITシステム統合: (運営+教育)で経費削減を目指した
- その他にも気になる発言もあった
- 「日本はCIOという観点からは米国から20年遅れている」(昨日開かれた非公開セミナー@熊本大学におけるNIME清水理事長の発言)

Chief Information
Officer

EDUCAUSEって何？

<http://www.educause.edu/>

- ITを賢く活用することによって高等教育をアドバンスさせること目的に活動している非営利団体で米国を中心に2200以上の大学・高等教育機関、約250社のIT関連企業が加盟、1万7千人以上がアクティブに活動している。
 - 海外機関は11%（うちカナダがその三分の一）
 - 日本の会員：私情協、京大、九大、名大、NIME、阪大（加盟順？）
かなり積極的に関与（たとえば・・・）
 - 設立年不明だがWebは(c)1999－2009



EDUCAUSE 日米セッションとは何か

- 正式名称: The First Follow-up Event for NIME-EDUCAUSE Seminar 2008
 - The Special Meeting with EDUCAUSE Executives for Japanese Participants with Luncheon
- 2008年10月29日米国フロリダ州オーランドにあるオレンジ郡カンファレンスセンターにて、EDUCAUSE年次大会開催中にもたれたセミナー
 - 日本側参加者: NIME清水理事長はじめ35名
 - 熊本大学からは、鈴木(もぐり)・松葉・右田・久保田
 - EDUCAUSE側: Diana Oblinger会長他幹部5名

その他の気になる発言

- CIOへのキャリアパスは？
 - 多様な学術的背景を持つが、大学経営・リーダーシップの高度な訓練を受けていることが共通点です。
- OCWは大学を駆逐するのか？
 - OCWは書籍で独学できる一流の学生以外にとっては大学と等価ではなく「マルチメディア図書館」に過ぎない。しかし、「大学とは何か」という問いを突きつける存在ではある。
- 講義録画ソフトがいまだに売れ行きが良いのは？
 - すべてを一挙に変革するわけにはいかない。関心が薄い教員の行動を変化させる第一歩にはなると思うし、少なくとも講義に出席できない学生にとっては朗報。教員が教室で講義以外に何ができるかを考える契機にはなるし、経営者にとっては複数回実施の講義をやめる経費削減策にもなる。

日本はCIOという観点からは 米国から20年遅れている

- 米国でCIOを置き始めたのが約20年前。それから様々な試行錯誤を繰り返し、いろんな苦勞をしながら10年前ぐらいからその効果が顕著に現れ始めて現在の隆盛に至っている。日本の大学ではCIOをこれから置き始めるという観点から「20年遅れている」と発言した。
 - 鈴木をつぶやき「でも、20年後に今の米国並になっているという保証はないですよ。20年後には40年遅れていると言われたいいのですが・・・」

「大学教育と情報」私情協

- 中嶋 航一・堀真寿美（2007）EDUCAUSE
2007に見るアメリカのeラーニングの現状
Vol.16 No.3http://www.juce.jp/LINK/journal/0801/04_01.html
- 翻訳：ネット世代への教育（原題：Educating the Net Generation）**16(2)** Educause e-book
- 翻訳：2004年版米国高等教育機関における実態調査（1－5） 14(4)-16(1)
– EDUCAUSE会員相互に交換しているCoreData